

京都大学基礎物理学研究所 大西 明

京都大学セミナー (2018/12/13)













- J-PARC エネルギーの重イオン衝突と低密度 高密度状態方程式
- 2粒子相関からハドロン間相互作用へ
- 径路最適化法による有限密度 QCD の研究
- 古典場の熱化









QCD phase diagram (Exp. & Theor. Studies)





Highest Density Matter at J-PARC?





3次元 QCD 相図



TP JAPOS



H.Ueda, T.Z.Nakano, AO, M.Ruggieri, K.Sumiyoshi, PRD88('13),074776



NuPECC, Long Range Plan 2017



(ρ, T, Y_{e}) during SN, BH formation, BNSM



重イオン衝突とコンパクト天体現象

- 重イオン衝突からの示唆
 - (ほぼ)対称核物質では(5-10)ρ₀において相転移がありそう。
 - ただし使われている EOS は低密度にしか使えないものが多い
- コンパクト天体現象
 - 超新星爆発では 2ρ₀,中性子星コアは 5ρ₀ 程度、
 ブラックホール形成・中性子星合体では 10ρ₀ 程度にまで達する
 - 低温での中性子過剰物質の状態方程式の制限はついてきた。

核物質の飽和性・対称エネルギーを正確に表し、 対称中性子星の質量・半径条件を満たし、 低密度では格子 QCD からの EOS に漸近する 低密度 - 高密度状態方程式を作り、 実験・観測と比べていく段階!



QCD 一次相転移に伴うEOS の softening



YUKAY

低密度-高密度状態方程式

- 現在使われている EOS
 - 高温・低密度:ハドロン共鳴ガス(HRG)から格子 QCD EOS に接続
 - 低温・高密度:様々な理論 EOS
- 低密度 高密度状態方程式
 - 低温でのフェルミ運動量展開 EOS から HRG EOS に接続し QCD 相転移を導入
 - Non-Rel. 運動エネルギーを相対論的な表式に置き換える
 - 核子以外のハドロンポテンシャルを中性子星の性質を 満たすよう導入(ハイペロンパズル)
 - 臨界点の埋め込み(浅川・野中)、または関数系での接続により QCD 相転移を導入

■ 用いる動的模型

= J-PARC-HI 理論グループで開発している統合模型

Y. Akamatsu, M. Asakawa, T. Hirano, M. Kitazawa, K. Morita, K. Murase, Y. Nara, C. Nonaka, AO, PRC98('18)024909



Neutron Chemical Potential in NS

- A appears in neutron stars if E_{Λ} (p=0) = $M_{\Lambda}+U_{\Lambda} < \mu_n$
- **U**_{Λ} in χ EFT (2+3 body) is stiff.
- **But** μ_n is larger with TLOK+2M_{\odot} constraints



Neutron Chemical Potential in NS

Neutron Chemical Potential

$$\mu_n + M_N = \frac{\partial(nE)}{\partial n_n} = E + u\frac{\partial E}{\partial u} + 2\alpha(1-\alpha)S(u)$$

Single particle potential



Isospin & Hypercharge Sym. E in quark matter

■ Two types of vector int. in NJL → Isospin & Hypercharge Sym. E X.Wu, AO, H.Shen, PRC to appear (arXiv:1806.03760)

$$\mathcal{L}_v = -G_0(\bar{q}\gamma_\mu q)^2 - G_v \sum_i \left[(\bar{q}\gamma_\mu \lambda_i q)^2 + (\bar{q}i\gamma_5\gamma_\mu \lambda_i q)^2 \right]$$

 $E = \alpha^2 S(n) + \alpha_Y^2 S_Y(n) , \ \alpha = -2\langle T_z \rangle / B , \ \alpha_Y = \langle B + S \rangle / B$



Dynamically Integrated Transport Approach

■ 流体模型と粒子シミュレーションを同時に解く

Akamatsu+('18)

超えると粒子を流体に変換

 粒子のエネルギー損失は
 流体のソース項として考慮
 エネルギー密度が下がると

エネルギー密度がしきい値を

流体を粒子に変換 ■ ストレンジネスを持つ粒子の 生成量が十分に大きくなる









New Data from LHC-ALICE



Morita, Furumoto, AO ('15); AO+('16)

V. M. Sarti (ALICE), MESONS 2018 ALICE Collab., in prep.





■ Ωp 相関 (dibaryon の存在を期待。 HAL QCD+Coulomb.)





■ K⁻p 相関 (束縛状態 Λ(1405) をもつ。Chiral Unitary+Coulomb)







■ Ξ⁻p 相関 (ΞN 束縛状態としての H 粒子は?)



V. M. Sarti (ALICE Collab.), MESONS 2018



相関関数から相互作用へ

- ▲ ΛΛ, Ξp, Ωp, K⁻ p と多くの実験データがでつつあり、 先駆者として責任を持って解析を進める
 - Ωp, ΩΩ: HAL QCD の更新された結果を用いて論文作成中
 - ΛΛ, Ξp: HAL QCD の結果を待って論文作成予定
 - K⁻ p: πΣ チャネルとの結合を考慮した新たなプログラム開発が必要
 J. Haidenbauer (arXiv:1808.05049)
- 新たな対の測定も提案したい
 - A-nuclear 相関
 → ANN3 体力が見れるか?
 - K⁻ K⁺ 相関
 - → 1 GeV 近辺のスカラー、 ベクトル中間子の性質解明



arXiv:1808.05049



Correlation Function with Coupled Channels







径路最適化による符号問題への挑戦

- 符号問題は理論物理学における Grand Challenges の一つ
- 径路最適化法はこれまでに低次元系・少数自由度系で成功
 - 激しく振動する関数の1次元積分
 - 1+1 次元複素スカラー理論
 - ◎ 0+1 次元 QCD
- より現実的な系への適用
 - QCD 有効模型 (PNJL) Kashiwa, Mori, AO (arXiv:1805.08940)
 - ベクトル結合を含む PNJL (強い符号問題あり)
 c.f. Thimble: Mori, Kashiwa, AO, PLB781('18)688
 - ◎ 1+1 次元 QCD
 - 3+1 次元 QCD の強結合極限、Heavy-Dense Limit, Hopping parameter expansion,
 - 3+1 次元 QCD (小さな格子)



問題点:計算コスト

- 径路最適化法では測度(ヤコビアン)からの複素位相も含めて径 路を最適化 → ヤコビアンに N³の計算コスト (N= 自由度)
- 解決方法:疎行列化
 - 虚部が同じ点での実部のみの関数
 E.g. Alexandru, Bedaque, Lamm,
 Lawrence, PRD97('18)094510
 Thirring model, 1+1D QED

$$y_i = f(x_i), f(x) = \lambda_0 + \lambda_1 \cos x$$

同じ点、および隣の点実部の関数
 F. Bursa, M. Kroyter, arXiv:1805.04941
 0+1 D φ⁴ theory
 Translational inv. + U(1) sym.

$$y_{a,i} = \frac{c_{ab}x_{a,i+1}}{1 + x_{1,i}^2 + x_{2,i}^2}$$
経験の蓄積が必要







RHIC における2つの驚き

- RHIC (Relativistic Heavy-Ion Collider)
 - 2000 年から稼働している重イオン衝突型加速器
 - クォーク・グルーオン・プラズマ (QGP) 生成を(ほぼ) 確認
- 2つの驚き(1): 強結合 QGP
 - 流体力学が大きな成功、QGP はほぼ完全流体 (η/s ~ 1/4π)。
 → 高エネルギーで結合定数 g は小さいはずなのに、 小さな平均自由行程が実現

RHIC 稼働前のあるセミナーにて。

"If a miracle happens and the system thermalizes at around τ~0.5 fm/c, hydrodynamics will work to describe the evolution of QGP."

A miracle happened !



RHICにおける2つの驚き (cont.)

- 2つの驚き(2): 早い熱平衡化

 - 高エネルギー重イオン衝突の初期条件
 = グラズマ(古典ヤンミルズ場が主要)
 - 古典ヤンミルズ場の成長(不安定性)→ 粒子への崩壊 → 熱化?

むしろ古典ヤンミルズ場自体がエントロピーを作っているのでは?





ヤンミルズ場のHusimi-Wehrl entropy





A. Ohnishi @ Kyoto U. Seminar, Dec. 13, 2018 28

古典場がエントロピーを持つなら、 輸送係数もあるはずでは?

流体の初期条件には古典場の結果を使える。 流体の粘性係数に滑らかにつながるだろうか?





- Green- 松原公式 $\eta = \frac{1}{T} \lim_{\omega \to 0} \int_0^\infty dt \int d^3 x e^{i\omega t} \langle T_{12}(\mathbf{x}, t) T_{12}(\mathbf{0}, 0) \rangle$
- 古典統計シミュレーション
 - 古典場を異なる初期条件で多数回計算し、その平均をとる
- T₁₂の時間相関は指数関数のテールをもつ。
 [not confirmed in previous work (Homor, Jacovac, ('15))]
- 古典場のずれ粘性は摂動論の結果より大きく、
 最小値よりも 1-2 桁大きい
 Shear viscosity



まとめ

- ┛ 研究計画
 - J-PARC エネルギーの重イオン衝突と低密度 高密度状態方程式
 - ◆高エネルギー重イオン衝突で用いられている EOS と 中性子星を記述する EOS をつなぐ!
 - 2粒子相関からハドロン間相互作用へ
 - ◆更新された核力・枠組みを用いて、新たなデータを分析
 - 全路最適化法による有限密度 QCD の研究
 - ◆より現実的な系へと進める
 - 古典場の熱化
 - ◆現在、古典場での輸送係数を研究中。
- ■目標
 - ●実験・観測に基づく3次元 QCD 相図の決定を目指す
 - 符号問題とうまく付き合って有限密度格子 QCD での結果を得る
 - Phys. Rev. A, B, C, D, E の全てに論文を出す。



Thank you for your attention !



(p, T) during SN & BH formation



Ishizuka, AO, Tsubakihara, Sumiyoshi, Yamada, JPG 35('08) 085201; AO et al., NPA 835('10) 374.

